

第5章 計画推進のための施策

1・乳幼児期における読書活動推進のための施策

○ 乳幼児啓発事業「はじめてのえほん よんで よんで」

4か月児健康診査受診者に引換券を配布し、品川区立図書館全館(11館)とおおさきこども図書室で、絵本1冊と図書館の利用案内、おすすめ絵本のリスト等を入れた布製の手提げバッグと引換えを行います。現在、5種類の絵本から1冊選択してもらっていますが、この選択肢に点字付き絵本・外国語の絵本を加えることを検討します。

また、保護者と子どもと一緒に参加できる講座を実施し、乳児期から絵本に触れる意義、子守歌・わらべうたが聞く耳を育てることを伝えていきます。

○ 「しながわ親子読書の日」「家読」の啓発

毎月23日を「しながわ親子読書の日」とし、親子が家庭で一緒に読書を楽しむよう、月ごとにテーマを決めて、読みきかせにおすすめする絵本のリストを発行します。また、記録をつけることが読書の励みとなるよう、子ども向け・親子向けの読書ノートを配布し、家読を広めます。

○ おはなし会の実施

子どもたちが、よい絵本に出会う場としておはなし会を行います。幼児・小学生向けのおはなし会のほか、近年、需要の高まっている乳児向けのおはなし会、英語や多言語でのおはなし会、手話付きのおはなし会等を実施していきます。

○ 子ども読書の日フェアの実施

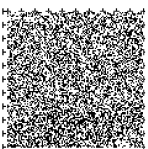
4月23日の「子ども読書の日」と秋の読書週間にちなんで「子ども読書の日フェア」を開催し、特集本の展示、映画会・おはなし会・手作り会・人形劇・科学工作あそびなどのイベントを実施します。

○ スタンプラリーの実施

8月1か月間の間に、異なる日付で3回自分の利用カードで本を借り、スタンプを集めた子どもに賞状と景品を渡します。丸い用紙におすすめの本を書いてもらい、果実に見立てて、読書の実として展示します。

○ 保育園・幼稚園等へのグループ貸出・団体配本

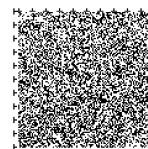
保育園・幼稚園等のクラスごとに50冊まで1か月間の貸出をします。図書館から遠い地域の希望する施設へは、図書館で選書した本を3か月ごとに配本する団体配本を行います。



- 保育園・幼稚園等への訪問おはなし会・来館おはなし会の実施
 保育園・幼稚園等の施設へ出向き、または来館してもらって、おはなし会を行います。また、大勢への読み聞かせに向く大型絵本を収集します。
- 児童センターとの共催事業
 児童センターを会場に、絵本講座・人形劇等の本に関わるイベントを実施し、普段図書館を利用しない層に対しても、図書館や「しながわ親子読書の日」、「家読」をPRします。
- PR物の作成
 全館共通のPR物として、
 「絵本とあかちゃん～はじめての出会い」「ご家庭での絵本の楽しみ方」
 「おひぎのうえて」0～2歳向け・3～5歳向け（おすすめ絵本のリスト）
 「おひぎのうえて もっと」0～2歳向け・3～5歳向け
 「よんでみたいな ちいさいこむけ」（前年1年に発行された中から選んだリスト）
 を配布します。他に、各館ごと地域特性に合わせて工夫したPR物を作成・配布します。
- 児童サービスボランティア・地域読み聞かせボランティア向け講座の実施
 区立図書館のおはなし会を実施してもらう「児童サービスボランティア」に登録してもらうために必要な知識を学ぶ「新規ボランティア講座」、登録後のスキルアップを目的としたレベルアップ講座、図書館以外でも活動したい方に登録してもらい、派遣を希望する区立施設に紹介する事業を行います。
- 地域読み聞かせボランティア向け講座の実施
 地域でボランティアとして読み聞かせなどの活動を行っている方を対象に公募を行い、スキルアップを目的とした講座を行います。

2・小学生段階における読書活動推進のための施策

- 新入生向け利用案内の発行
 小学校1年生に向けて、図書館の紹介をする利用案内を作成し、区立小学校・義務教育学校を通して配付します。
- おはなし会の実施
 子どもたちが、よい絵本に出会う場としておはなし会を行います。定例のおはなし会のほか、英語や多言語でのおはなし会、手話付きのおはなし会を実施していきます。
- 子ども読書の日フェアの実施
 乳幼児期の項目参照



○ スタンプラリーの実施

乳幼児期の項目参照

○ 科学あそび教室の実施

観察や実験を通して自然科学への興味を喚起させ、知識の本や科学読み物への導入を図るために開催します。

○ 図書館員体験

図書館の仕事を実際に体験してもらうことによって、図書館や読書により興味を持ってもらうことを目的としています。

○ 図書館見学

学校等からの依頼を受けて、図書館見学を実施します。普段は見ることのできない裏側を見てもらい、どのように仕事をしているかを知ってもらうことで、図書館へ親しみを感じてもらいます。

○ 学校等への訪問おはなし会・ブックトークの実施

希望する学校等へ訪問し、おはなし会、ブックトークを実施します。

○ 児童センター・すまいるスクール等へのグループ貸出・団体配本

児童センター・すまいるスクール等に50冊まで1か月間の貸出をします。図書館から遠い地域の希望する施設へは、図書館で選書して3か月ごとに配本する団体配本を行います。

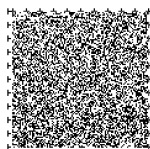
○ PR物の作成

全館共通のPR物として「よんでみたいな！」(前年1年に発行された中からおすすめの本を選んだリスト)1・2年生向け、3・4年生向け、5・6年生向けを発行、配布します。

そのほか、各館ごと地域特性に合わせて工夫した図書館新聞、おすすめ本リストなどのPR物を作成・配布します。

○ 学校図書館運営サポート

品川区立小・中学校および義務教育学校の学校図書館に、貸出返却・資料集め・レファレンス・資料整備・読み聞かせ・ブックトーク・学校図書館だよりや装飾の作成、選書補助等の業務を行う学校図書館運営支援スタッフを配置します。現在、週15時間または18時間の配置時間を拡張することを目指します。また、学校図書館をシステム・ネットワーク化し、区立図書館システムと連携を行い、学校図書館で予約・取り寄せをした区立図書館の本を、巡回車で週2回、配送します。学校図書館ボランティアを対象に、学校図書館の基礎知識・読み聞かせの仕方等についての講座を行い、研修機会を提供します。



3・中学生段階における読書活動推進のための施策

○ ティーンズコーナーの充実

各館のティーンズコーナーに、中学生から大学生までに向けたさまざまな資料を並べます。資料の収集においては、ティーンズボランティアをはじめとしたティーンズの声ができるだけ反映させて選書を行います。

○ ティーンズ書評バトルの実施

POP部門（おすすめ本のPOPを作成して応募してもらい、図書館の利用者の投票でチャンプを決めるコンテスト）とビブリオ部門（応募したパトラーが5分でおすすめの本を紹介した後、3分間、会場からの質問に応じ、観覧者の投票でチャンプを決める）の2つの書評バトルを行い、おすすめの本を紹介するという形の自己表現の場を提供すると同時に、同年代がおすすめする本によって、読書興味の幅を広げる機会とします。

○ ティーンズボランティア

各館でティーンズを対象にボランティアを募集し、本の配架作業からPOPの作成、特集展示、イベント実施の補助等の活動をしてもらいます。

○ 職場体験

学校等からの依頼を受けて、生徒に職場体験をしてもらいます。図書館の仕事を実際に体験してもらい、将来の職業選択の参考としてもらいます。

○ 学校でのブックトーク・ビブリオバトル出前授業の実施

希望する学校等へ訪問し、ブックトークや、ビブリオバトルを体験してもらう出前授業を実施します。

○ 自習室開放

近隣の中学校・義務教育学校・高等学校の定期試験と、受験シーズンに合わせ、学生向けに自習室を解放します。

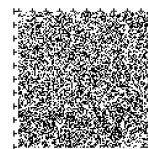
○ PR物の作成

全館共通のPR物として「Let's Read!」（前年1年に発行された中からおすすめの本を選んだリスト）を発行、配布します。

そのほか、各館ごと地域特性に合わせて工夫した図書館新聞、おすすめ本リストなどのPR物を作成・配布、図書館ホームページのティーンズコーナーにも掲載します。

○ 学校図書館運営サポート

小学生段階の項目参照



4・高校生・大学生段階における読書活動推進のための施策

○ ティーンズコーナーの充実

各館のティーンズコーナーに、中学生から大学生までに向けたさまざまな資料を並べます。資料の収集においては、ティーンズボランティアをはじめとしたティーンズの声ができるだけ反映させて選書を行います。

○ ティーンズ書評バトルの実施

POP部門（おすすめ本のPOPを作成して応募してもらい、図書館の利用者の投票でチャンプを決めるコンテスト）とビブリオ部門（応募したパトラーが5分でおすすめの本を紹介した後、3分間、会場からの質問に応じ、観覧者の投票でチャンプを決める）の2つの書評バトルを行い、おすすめの本を紹介するという形の自己表現の場を提供すると同時に、同年代がおすすめする本によって、読書興味の幅を広げる機会とします。

○ ティーンズボランティア

各館でティーンズを対象にボランティアを募集し、本の配架作業からPOPの作成、特集展示、イベント実施の補助等の活動をしてもらいます。

○ 学校でのブックトーク・ビブリオバトル出前授業の実施

希望する学校等へ訪問し、ブックトークや、ビブリオバトルを体験してもらう出前授業を実施します。

○ 自習室開放

近隣の中学校・義務教育学校・高等学校の定期試験と、受験シーズンに合わせ、学生向けに自習室を解放します。

○ PR物の作成

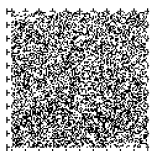
各館ごと地域特性に合わせて工夫したティーンズ向けの新聞、おすすめ本リストなどのPR物を作成・配布、図書館ホームページのティーンズコーナーにも掲載します。

○ 高等学校等との連携

区内にある高等学校に対し、公共図書館に求めるサービスや、ボランティア体験・図書館見学の受入れ等のニーズについて調査し、連携を進めていきます。

○ 大学との連携

区内にある立正大学、清泉女子大学の大学図書館でアルバイトをしている学生のグループに、ティーンズに向けた企画を提案してもらい、協同で実施していきます。



5・より良い読書環境づくりのための施策

○ 子どもの多様性に対応した幅広い資料の収集

子ども向け大活字本、LLブック^{*1}、点字図書、さわる絵本^{*2}、マルチメディアDAISY^{*3}図書等バリアフリー図書の収集により、通常の図書を読むことが難しい子どもが、自分にあった図書に出会える環境を整えます。

日本語を母語としない子どもたちが、日本語を習得するのに役立つよう、日本語の多読^{*4}図書を収集するとともに、英語や母国語での読書ができるよう、しながわ電子図書館も含めて、多言語の資料を収集していきます。

また、こういった資料があることを、子どもたちに広く知らせていくとともに、学校の先生方、学校図書館スタッフをはじめとした、子どもに関わるすべての大人たちへもPRしていきます。

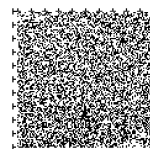
-
- *1 LLブック：誰でもやさしく読みやすいよう工夫して作られた本
 - *2 さわる絵本：絵本を原本とし、布や皮革、毛糸などの素材を用いて、台紙に絵の部分を半立体的に貼り付け、文の部分を点字と墨字にした図書
 - *3 マルチメディアDAISY図書：音声と一緒に文字や画像が表示されるデジタル図書。読み上げているフレーズの色が変わるハイライト機能があり、また、読みやすいように、文字の大きさ、音声のスピード、文字や背景の色を選ぶことができる
 - *4 多読：辞書を使わずに、自分にとって読みやすい内容の本をたくさん読むことで、語学力を身につける学習法
-

○ 子どもの多様性に対応したアプローチ

身体の障害、家庭の事情等、様々な理由で、読書することが困難になっている子どもが、どうすれば読書に親しめるのか、図書館が外向いていくことや、しながわ電子図書館の充実も含め、アプローチの方法を検討していきます。

○ 区内の関連施設等との連携

都立品川特別支援学校、品川区児童相談所、障害児者総合支援施設「ぐるっぼ」、マイスクール、明晴学園、子ども食堂等に働きかけ、連携して子どもの読書活動を推進することを視野に入れ、取り組みを進めていきます。



6・子どもの読書活動を進めるための情報発信

○ 子どもに届く多様な情報発信

各段階の施策として、作成・配布することとしているPR物について、従来の配布方法・図書館ホームページへの掲載に加え、各種SNS・デジタルサイネージの利用を含め、広く発信していきます。

○ 図書館ホームページの充実

読書活動に関する情報発信のプラットフォームとして、図書館ホームページの「こどものページ」「TEENsのページ」を、それぞれの対象者にとって魅力的かつ使いやすいものにしていきます。また、保護者、学校・幼稚園・保育園等の先生方等、子どもの読書活動に関心のある大人の方々に向けたページについても充実を図ります。

